

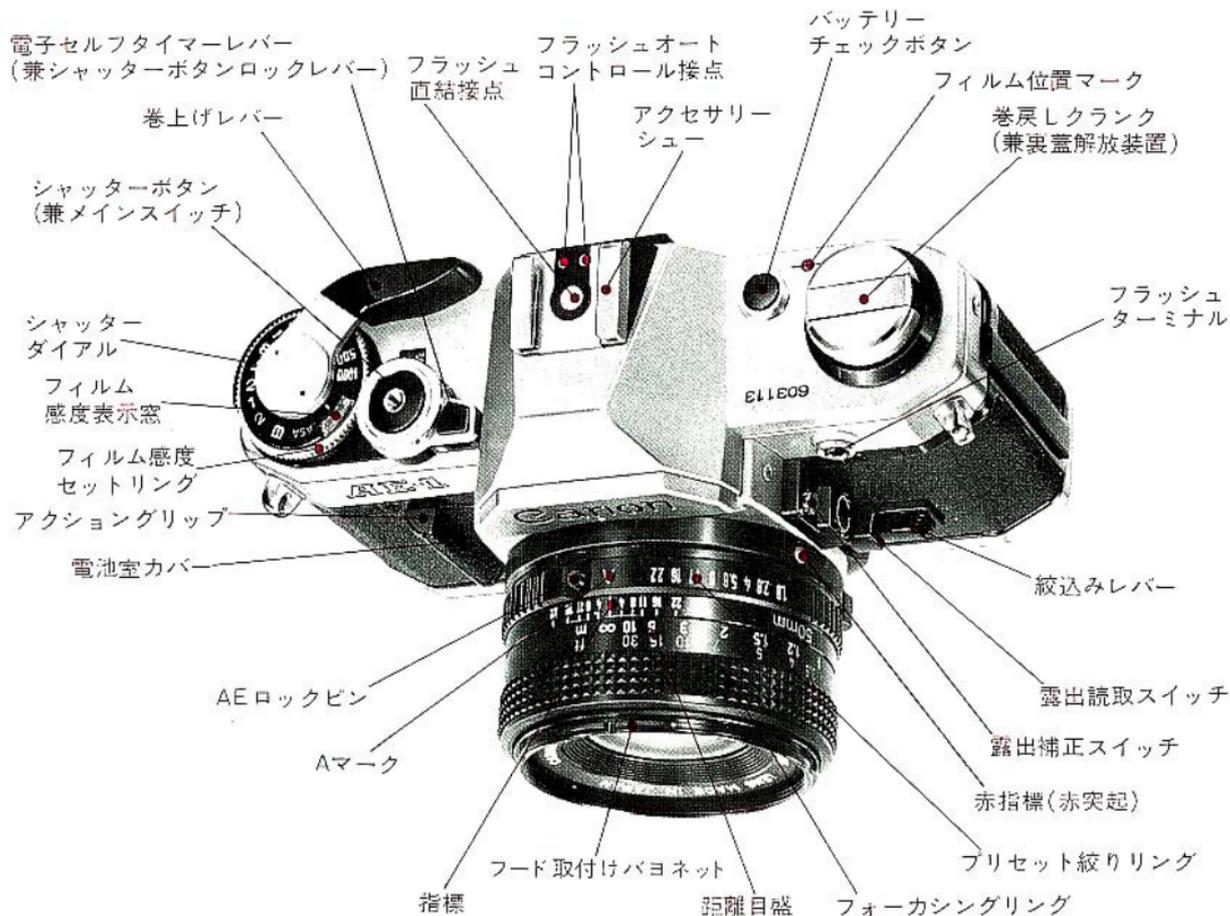
# Canon AE-1



日本語版

使用説明書



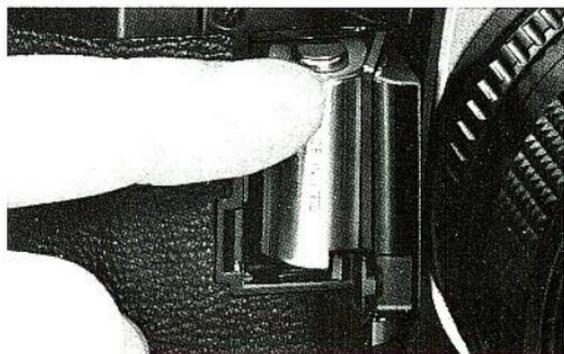


## 撮影の手順

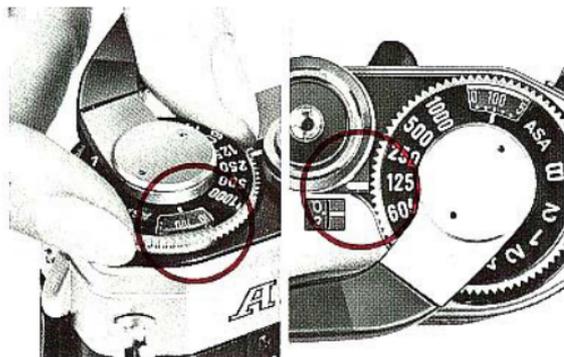
### 1 レンズをAマークにセットする



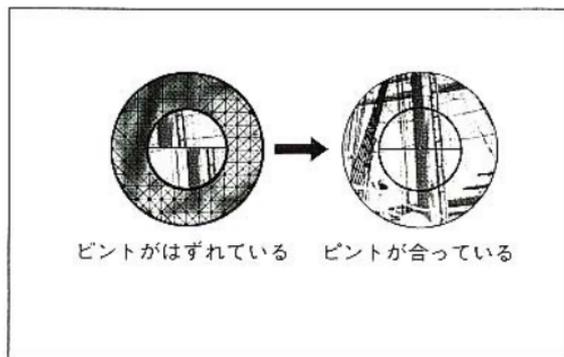
### 2 電池を入れる



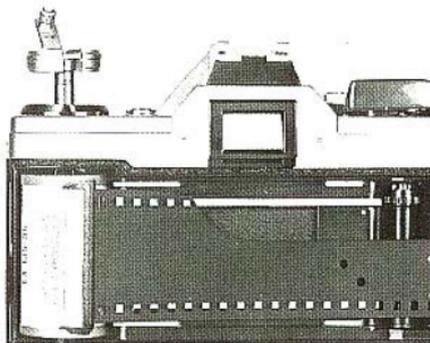
### 4 フィルム感度を合わせる シャッタースピードをセットする



### 5 構図を決め、ピントを合わせる



### 3 フィルムをつめる

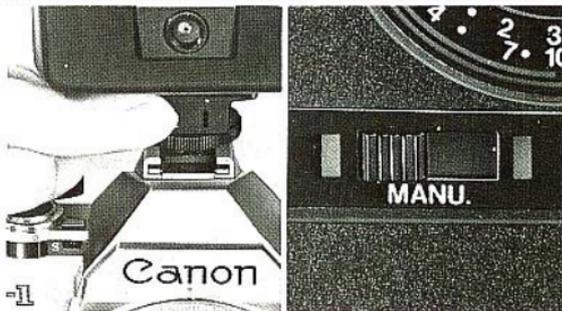


### 6 シャッターボタンを押す (露出を確認する)



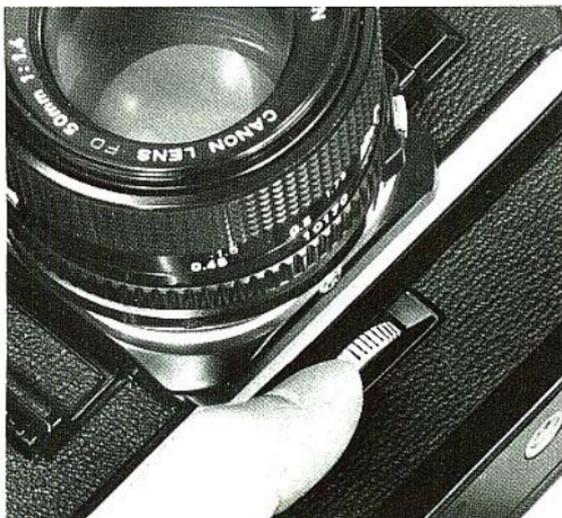
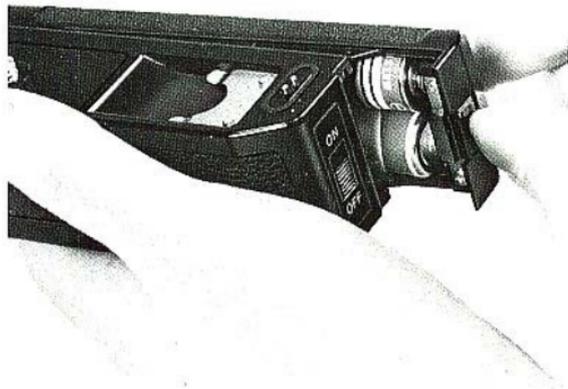
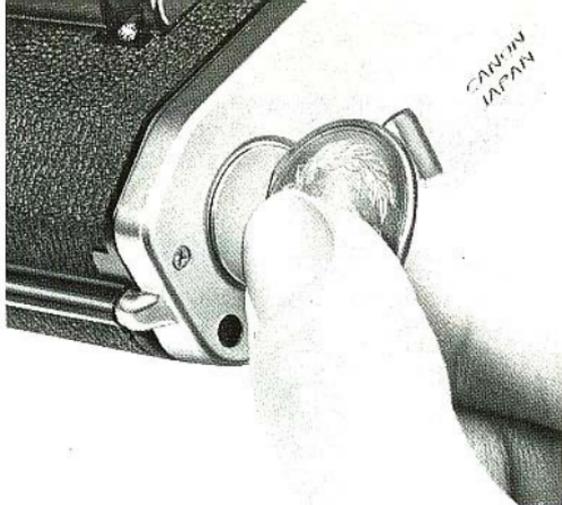
## 専用スピードライトでの撮影

1. 電池を入れる
2. ASA感度を表示する
3. スピードライトを取付ける (155A, 177A, 199A)
4. 調光絞り選択スイッチをセットする
5. ピントを合わせシャッターボタンを押す



## パワーワインダーAの撮影

1. バッテリーパックをはずし電池を入れる
2. ワインダーソケットカバーをはずす
3. ワインダーをカメラに取付ける
4. 電源スイッチをONにする
5. ピントを合わせシャッターボタンを押す



# 目次

特長	8～9	絞込み測光定点，手動絞り表示Mランプ	40
撮影前のカメラの準備	10	シャッターと絞り変化による写真効果	41
レンズの取付けとAマークのセット	12～14	被写界深度	43～45
電池の入れ方とバッテリーチェック	15～17	セルフタイマー撮影	46
フィルム装てんと感度セット	18～21	逆光撮影，長時間撮影	47
シャッターボタンロック	23	絞込み測光撮影	48
基本撮影操作	24	手動絞りロック撮影	49～51
シャッタースピードの選び方	25	レンズ各部の説明	52～54
ピント合わせ，アクセサリ	27	アクセサリのご紹介・手入れ・保管・その他	55
カメラの構え方	31	専用キヤノンスピードライト	57
撮影終了の確認と巻戻し	33	AE-1のフラッシュ撮影について	58
各部機構のくわしい働きと応用	35	キヤノンパワーワインダーA	59
ファインダーと測光分布	37	データバックA，オートベローズ	61
測光範囲と露出オーバー警告マーク	38	その他	62～63
露出アンダー兼連動範囲外警告ランプ	39	主要性能	64～65
		カメラの手入れと保管	67～68
		寒冷地での扱い	69

## 特長

キヤノンAE-1は一眼レフの歴史を変える画期的なAEカメラです。

これまでの電子コントロール一眼レフカメラは、単に露出決定機構などの一部を電子化したにすぎませんでした。キヤノンAE-1は、カメラでは世界初のCPU(中央演算ユニット)を内蔵し、露出の決定、記憶、信号発信、表示、時間制御、完了信号など、すべてを電子コントロールする、新しいタイプの一眼レフカメラです。

キヤノンAE-1の自動化は単にカメラにとどまることなく、アクセサリを含めて高度に実現されました。

(AE-1とはTotal Automatic system by Electronics No.1の略です。)

## 電子技術中心のシステム設計

高度な自動化を推進させたのは革新的な電子技術で、カメラの作動機構をすべて解析し、

可能な限り自動化を計りました。

すなわち、メカニズム中心の設計からエレクトロニクス中心設計に転換し、カメラの設計概念を大きく変えました。

その結果、世界で初めてカメラにマイクロコンピュータ(CPU)を内蔵することに成功しました。CPUは電子化された撮影情報を演算、判断、制御、指示する役割をはたします。

## 高度の電子技術を導入

世界のエレクトロニクスの最先端をゆく、I<sup>2</sup>L(アイスケア・エル)技術を中心とした、超集積度のLSIデジタル回路や演算増幅器、アナログスイッチをフルに活用した回路、厚・薄膜技術応用の双曲線函数抵抗器、アナログとデジタルの混成回路、またこれらを一体化する実装技術、インターフェイス技術など、キヤノンAE-1には従来のカメラの概念を超えた高度の電子技術が盛り込まれています。

## 電子化設計による信頼性の向上

コンピューター駆使技術と電子化設計がカメラ生産に一大転換機をもたらしました。

それは、内部機構のユニット化による自動組立です。自動組立を可能とするにはユニットを構成する部品の高精度化が要求されますがキヤノンの生産技術はコンピューターを徹底的に利用し、主要部品の自動設計、組立、加工、仕上げを確立しました。

ユニット化によってユニットごとの機能チェックが可能となり、また高精度部品により、飛躍的な品質の向上を計ることができました。しかも、コンピューターの利用は設計のみならず加工、組立、検査と、生産工程のすべてに及び高品質・均一性を得ることができました。さらに電子回路部分は高度の実装技術と生産技術によって合理的に構成され、同時に、重要部を密封化し、防塵、防湿、防温対策が十分とられています。

## チャンスに強いシャッター優先式

このカメラはシャッタースピードをセットすることによって狙った被写体の明るさに応じて、自動的に絞りが決まるシャッタースピード優先式の自動露出カメラです。

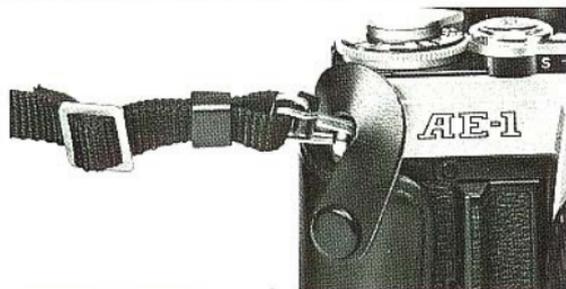
この機構はFDレンズが、特殊な構造をもっているため、可能となりました。

従って被写体の動きに合った作画上のスピードを自由に選ぶことができます。

## その他

- 電磁リリース方式のシャッターボタン
- チャンスを逃さぬ瞬間測光
- 優れた温度特性
- 操作性に優れた軽量コンパクト化
- 豊富なアクセサリ

# 撮影前のカメラの準備



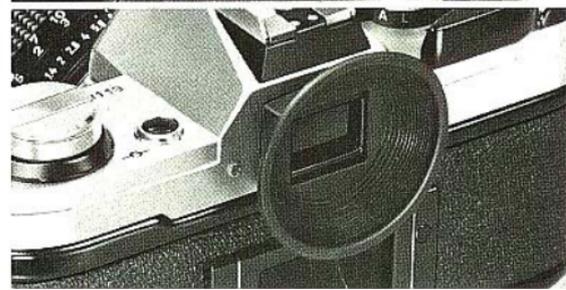
## ネックストラップ

カメラ両端の吊環にネックストラップを取付けてください。取付けの際はストラップ先端が内側になるようにして取付けると同時に、プラスチックのベルト止めを写真のように取付けてください。



## 皮ケース

別売の皮ケースをカメラに取付けるときは、ケース両端のベルトをカメラの吊環の後ろに回して、写真のように止めてください。尚、上カバーを外すときは、上に押上げてから手前に引張ってください。



## アイカップ4S

接眼部のフードです。必要に応じて写真のように取付けてください。

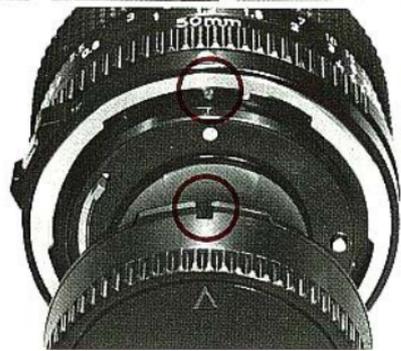
## フード

フードは別売りですが、有害光線をカットしますので、必要に応じて使用してください。フードの取付けは、レンズ先端のフード取付けバヨネットにはめ込んで回すだけです。外すときは逆回しにします。尚、フードはギャゼットバックなどへの収納を考慮して、逆向きにかぶせてキャップをすることができるようになっています。



## レンズキャップの扱い

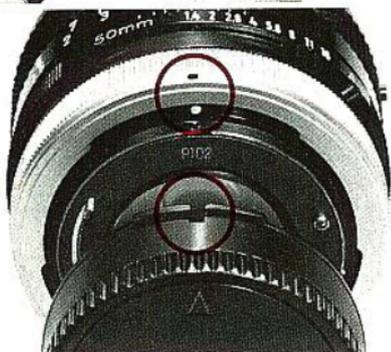
前面のキャップは両側のつまみを押すとはずれます。底蓋(ダストキャップ)は矢印方向に回すだけで外れます。取付けるときは逆の要領で行ないますが、位置決めピンと底蓋の溝(キャップ外側の▲印)を合わせ、キャップを押付けながら回します。





(締付けリングを持つレンズ)

締付けリングを持つレンズのダストキャップを外すときは、締付けリングを矢印方向に回してください。取付けるときは逆の要領で行ないますが、締付けリングの赤点下にある位置決めピンと、底蓋の位置決め溝(キャップの▲印)を合わせて、押付け気味にしながら締付けリングを回します。尚、ダストキャップを外すと締付けリングは回せません。



## 1 レンズを取付けます

ボディのキャップを外し、レンズを取付けてください。

取付けるときは、カメラの赤点とレンズの赤指標(赤突起)を合わせ、レンズ全体を時計方向に回します。

完全に取付くとカチッと音と同時に、レンズ取外しボタンが飛出ます。

レンズを外すときは、レンズ取外しボタンを押しながら、レンズを反時計方向に回し、手前に引きます。

※レンズの装着確認は、レンズ取外しボタンの



飛出して行なってください。従って、取付けの際はレンズ取外しボタンを押さえたままで行なわないでください。

レンズ交換のしにくい暗い場所では、レンズの赤指標(赤突起)をおおよそ合わせて、取付けることができます。尚、暗い所での取付け確認は、カチッという取付音で行なってください。

※キヤノンペリックス及び自動絞りが連動するエクステンションチューブ類は、赤指標を確実に合わせて取付けてください。

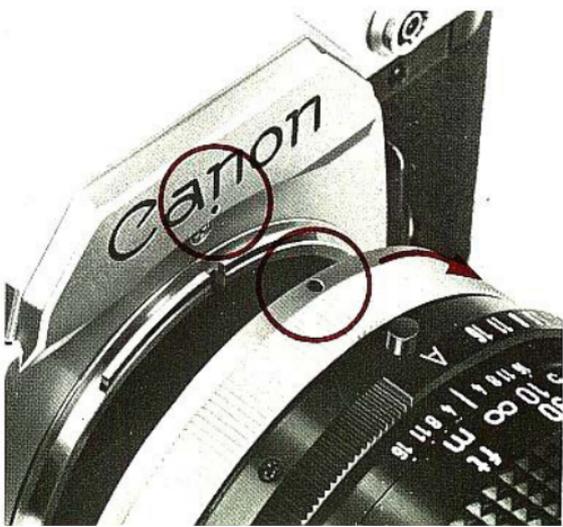
(締付けリングを持つレンズ)

締付けリングを持つFDレンズを取付けるときは、ボディの赤点と締付けリングの赤点を合わせ、押付け気味にしながら締付けリングを時計方向に一杯に回します。

外すときは赤点が真上にくるまで逆に回します。

※FDレンズはフィルム巻上げの途中で取付けないでください。

※絞込み測光レバーを押込んだ状態でレンズを取付けないでください。





## 2 レンズの絞りリングをAマークに合わせます

このカメラはAEカメラですから、Aマークにセットしないと自動適正露出は得られません。

Aマークを指標にセットするには、AEロックピンを押しながらプリセット絞りリングを回します。解除する場合も押しながら行ないます。

Aマークにセットするのはレンズを取付けたあとでもさきでもさしつかえありません。

### 3 電池を入れます

このカメラは電池がないと作動しませんので、電池室をあけ、別封の酸化銀電池を入れてください。

電池室はアクセサリシューに差込んであるファインダーカバーを利用すると簡単にあけることができます。

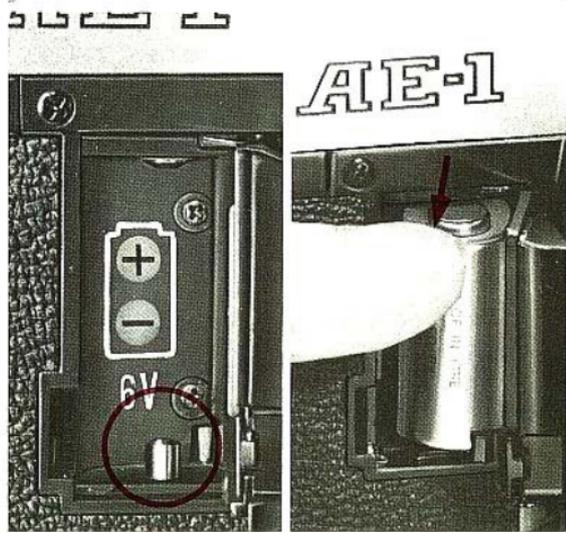
電池は⊕⊖の向きを電池室内の図に合わせます。入れるときは電池室内の下部接点を電池で押しつけるようにして入れてください。

電池を取出すときも同様に、電池で接点を押しつけるようにして取出してください。

電池の出し入れはレンズをはずした方が簡単にできます。

電池は普通に撮影して約1ヵ年使用できます。

寒冷地での電池特性は69頁を参照。



#### 4 バッテリーをチェックします

このカメラは電子制御式のため、必要な電池電圧がないとシャッターは作動しません。そのため次のようなときは電池をチェックしてください。

- ①電池を交換したとき。
- ②シャッターが作動しなくなったとき。
- ③長時間露出などをひんぱんに行なったとき。
- ④使用ひん度が高いとき。
- ⑤長期間使用しなかったとき。
- ⑥寒冷地で使用するとき。

使用可能電池	
酸化銀電池 (6V)	エバレディ(UCAR)No.544 JIS 4SR44 (JIS 4G13) マロリーPX28
アルカリマン ガン電池 (6V)	ナショナルマロリー7K34 エバレディNo.537

アルカリマン  
ガン電池



酸化銀電池



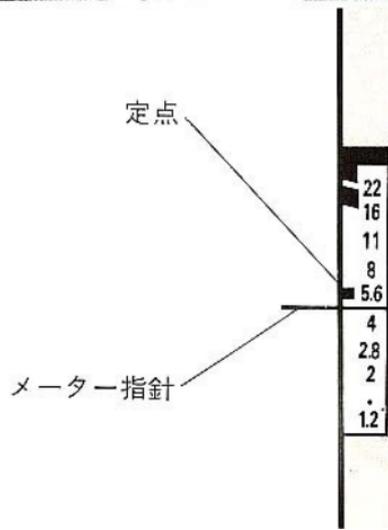
## チェック方法

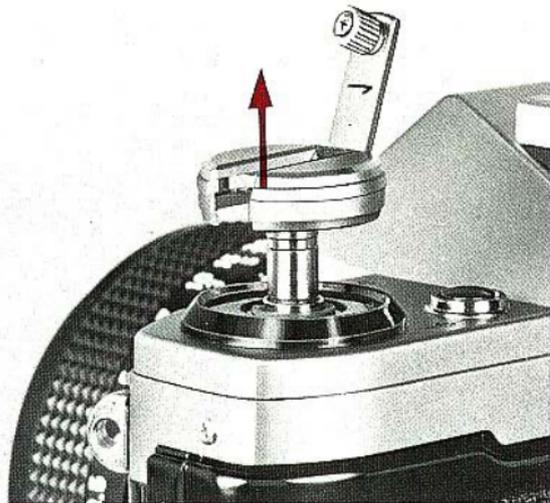
電池電圧はカメラ上部のバッテリーチェックボタンを押しながら、ファインダー内のメーター指針位置で確認します。

ボタンを押して指針が定点より下に振れればOKです。定点にかかった場合は交換してください。

十分な電圧をもつ新電池ではメーター指針はF4以下に振れますが、電圧が少なくなるにつれて定点位置に近づきます。

※バッテリーチェックボタンを3秒程度押しつづけ、指針が安定しない場合には、電池残量が少ない証拠ですから、新品電池と交換してください。





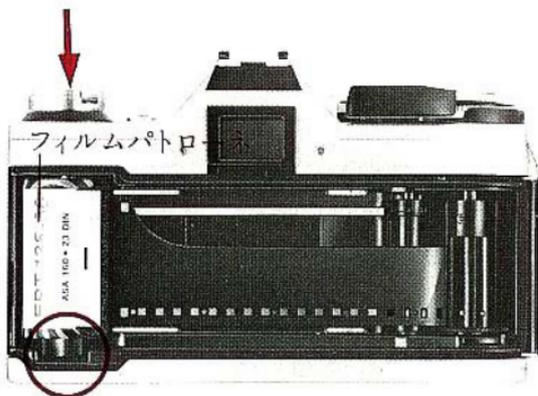
## 5 フィルムをつめます

フィルムは市販の35mmフィルムを使用します。

### 裏蓋の開閉

巻戻しクランクを上にも引張ると裏蓋が開きます。閉じるときは裏蓋を押付けるだけでロックされます。

裏蓋は口付けなどのデータを写込むことのできるデータバックAと交換することができます。61頁参照。



### フィルムのつめ方

フィルムをつめるときは直射日光下をさけてください。尚、フィルムはパトローネ軸の出ている方を写真のように下向きにして入れます。そのあと巻戻しノブをパトローネ軸にかみ合うように押戻しますが、うまく戻らないときは巻戻しノブを左右に回しながら行ってください。

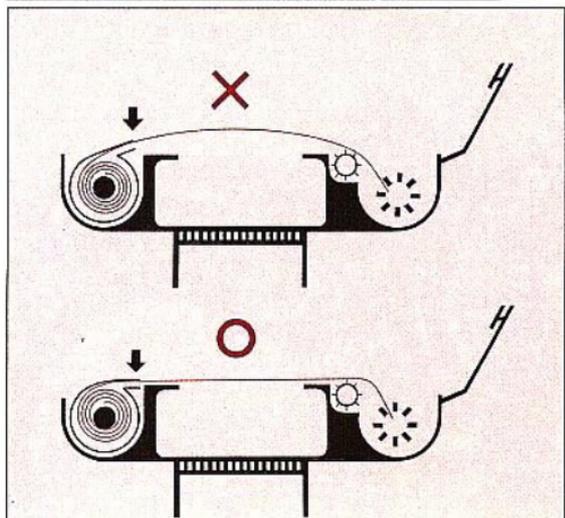
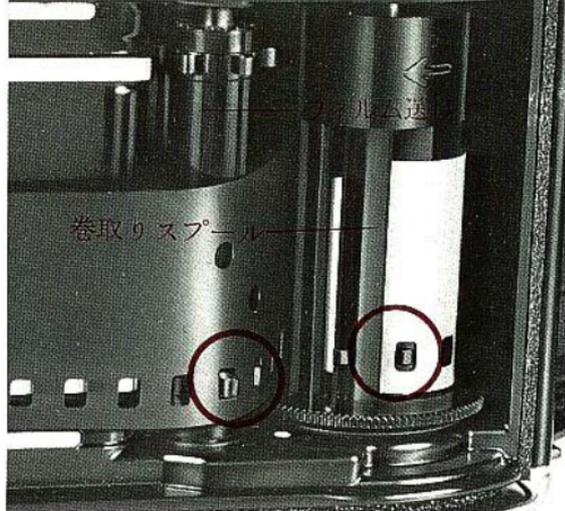
パトローネを入れたら、写真のようにフィルム先端を巻取りスプールの溝に十分に差込んでください。

巻上げレバーを回してフィルムを巻取りスプールに巻付けます。このとき、巻取りスピールの突起とフィルム送りの突起がフィルムのパーフォレーション（穴）にかかっているのを確かめてください。

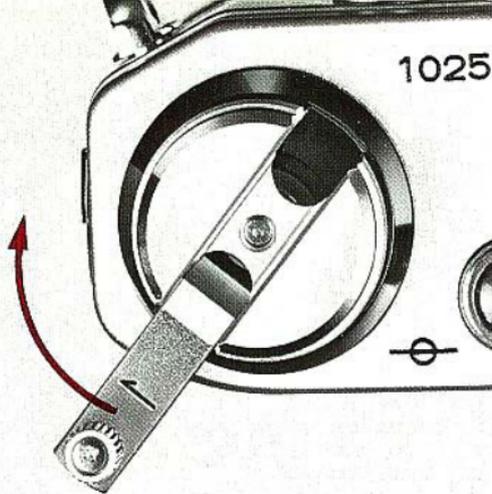
次にパトローネ口が浮上っていないことを確認してください。

浮上っている場合は、巻戻しクランクを矢印方向に回してたるみをとってください。さらに巻上げレバーを回し、スプールがフィルムを巻取ったことを確認したならば裏蓋を閉じます。

フィルムを入れるときシャッター幕、フィルムレール面、圧着板などに手をふれないようご注意ください。



1025



## 装てん後

巻戻しクランクを矢印方向に止まるまで静かに回してパトローネ内のたるみをとります。フィルムをつめた後は、フィルムカウンター目盛が1枚目を表示するまで、巻上げとシャッターボタンを押す操作を繰返してください。

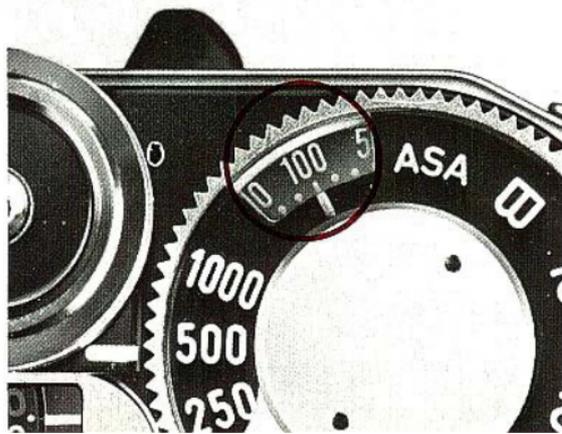
## フィルム送りの確認

フィルムが正常に送られているときは、巻上げのつど巻戻しノブが回ります。回らないときは最初から入れ直してください。

## 6 フィルム感度を合わせます

フィルムをつめたら、必ず使用フィルムのASA感度を合わせます。

フィルム感度はフィルムが光に感じる速さを数字で表わしたもので、数字が大きくなるほど光に強く感じます。フィルム感度はフィルムの外箱にASA100などというように明示されています。



## 合わせ方

シャッターダイアルの外周リングを持上げながら回し、フィルム感度表示窓の指標に感度目盛を合わせます。

このとき巻上げレバーを手前に引出しておくと簡単にセットできます。

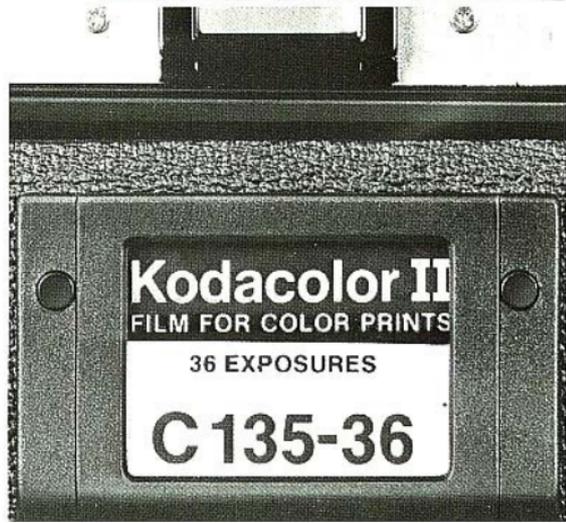
使用フィルム感度は次のようになり、中間の点は（ ）内の感度目盛になります。

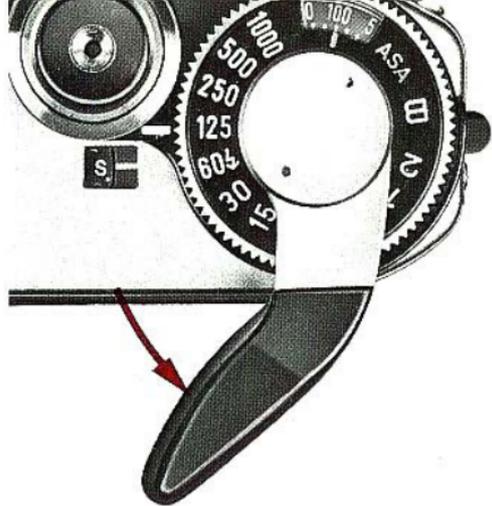
ASA25 <sup>(32)</sup> <sup>(40)</sup> 50 <sup>(64)</sup> <sup>(80)</sup> 100 <sup>(125)</sup> <sup>(160)</sup> 200 <sup>(250)</sup> <sup>(320)</sup> 400  
<sup>(500)</sup> <sup>(640)</sup> 800 <sup>(1000)</sup> <sup>(1250)</sup> 1600 <sup>(2000)</sup> <sup>(2500)</sup> 3200

## メモホルダーの利用

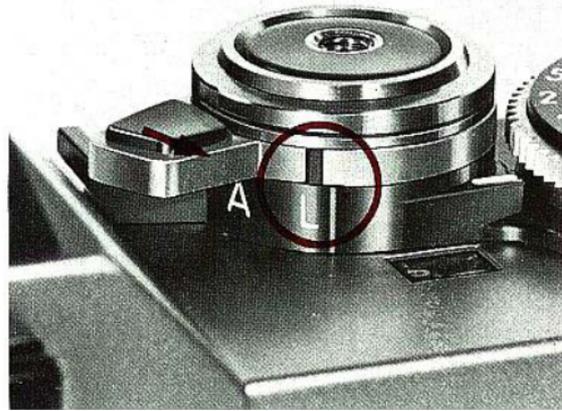
裏蓋についているメモホルダーには、フィルム包装箱のタイプ名の表示されている部分を切取り、差込んでご利用ください。

また、撮影地やデータなどのメモ入れとしてご利用いただけます。





(シャッターボタンのロック)



## 巻上げレバーとシャッターリリース

巻上げレバーを回し、シャッターボタンを押すと撮影が行なわれます。

つまり、巻上げレバーはフィルムの巻上げと同時にシャッター、絞り、ミラーなどの作動チャージを一度に行なうものです。

巻上げレバーは手前に軽く引くと止まりますが、これは巻上げをしやすいための余備角です。

この位置から巻上げレバーを止まる場所まで回せば、フィルムが1枚送られ、シャッターボタンを押すことができます。巻上げ途中ではシャッターボタンを押すことはできません。

巻上げレバーを小刻みに繰返し巻上げても、フィルムを送ることができます。

キヤノンAE-1では巻上げの自動化を計り、1秒間に約2枚撮影可能なパワーワインダーAを併用することができます。59頁参照。

## シャッターボタンとロック

シャッターボタンは、AE測光およびシャッター駆動に関するメインスイッチになっています。

電磁リリース方式を採用しており、シャッターボタンを軽く押すと第1段階で測光が行なわれ、さらに押すとシャッターがリリースされます。

電磁リリース方式は機械式リリースと異なり、非常にソフトタッチで測光と撮影を連続して瞬時に行なうことができます。

シャッターボタンロックレバーを手前方向に回し、指標を(L)位置に合わせれば、シャッターボタンは押せなくなります。

カメラを携帯するときにはシャッターボタンをロックして、無駄写しや電池消費を防いでください。

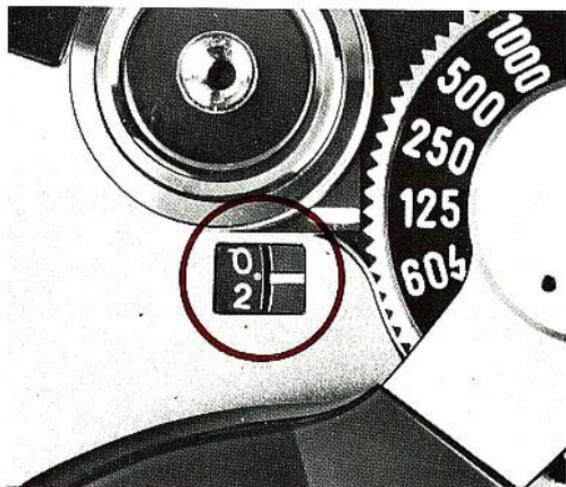
このカメラは必要電池電圧がないと、作動しない安全回路が組込まれています。17頁参照

## フィルムカウンター

フィルムカウンターは、巻上げレバーを巻上げるごとに1目盛進む順算式で、裏蓋を開くとスタート位置(S)に戻ります。またフィルムの巻戻しに連動して逆算します。

目盛は(S)から始まり、0、2、4……38までありますが、38以上は進みません。

また市販のフィルムの撮影枚数20と36は橙色で表示されています。



# 基本撮影操作

このカメラはあらかじめセットしたシャッター速度に対して、絞りを自動的に適正値に電子制御するシャッター優先式AEカメラです。

写真は時間の流れの一瞬を切取るものという基本思想に基づいて、この方式が採用された

ものです。

シャッター優先は被写体の動きを適確にとらえる最良の方式で決定的瞬間に強いと言えます。また、シャッター優先は動きを強調するぶれのコントロールも自由自在で、撮影者の意図を存分に盛込むことが可能です。

## 1 シャッタースピードをセットします

シャッターダイヤルはシャッタースピードを決めるためのもので、シャッタースピード目盛がついています。

シャッタースピード目盛は数値が1段大きくなるにつれて、光量が $\frac{1}{2}$ になる、倍数系列方式です。

このカメラは2秒から $\frac{1}{1000}$ 秒までの調節が可能で、125、250という数字はそれぞれ $\frac{1}{125}$ 秒、 $\frac{1}{250}$ 秒を意味します。ただし橙色の2は2秒です。

B(バルブ)は長時間露出でシャッターボタンを押している間、シャッター幕が開いたままで露光が行なわれます。

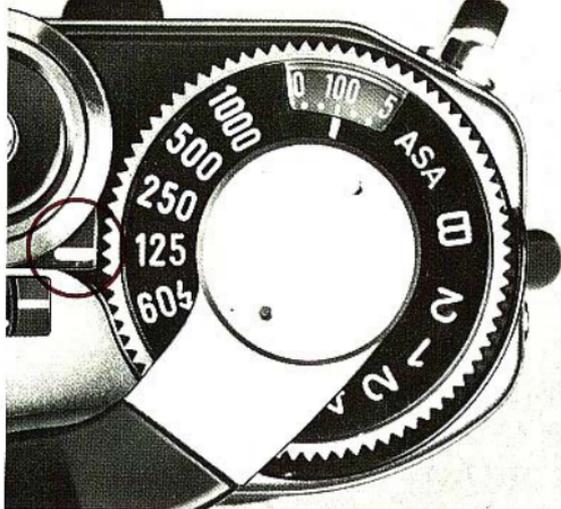
長時間露出は47頁参照。

シャッタースピード目盛の中間は使用できません。クリックストップ位置にセットしてください。

また、Bと1000の間は回転できません。

## シャッタースピードの選び方

シャッタースピードは被写体の明るさや動きなどによって決まりますが、大体の目安とし



## シャッタースピードの基本的な選び方

明るさ	シャッタースピード (秒)
一般的な室内	$\frac{1}{30} \sim \frac{1}{60}$
戸外	$\frac{1}{125} \sim \frac{1}{250}$
真夏の海浜・雪山	$\frac{1}{500} \sim \frac{1}{1000}$

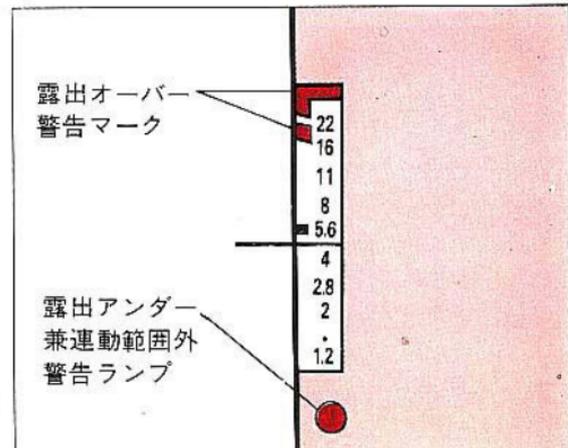
て表のようになります。

表は標準レンズを使用したときのシャッター速度ですが、焦点距離の長いレンズではブレが目立ってきますので速いシャッター速度を選ぶ必要があります。

一般的には使用レンズの  $1/$ 焦点距離以上のシャッター速度にすればブレのない写真が得られると言われてています。

例えば200 mm レンズは  $1/200$ 以上（シャッターダイヤル目盛は  $1/250$ になります）にセットすれば良いわけです。

構え方もブレに大きく影響しますのでご注意ください。31 頁参照。



## 2 露出を確認します

このカメラは瞬間測光を生かすため電磁石スイッチを利用したレリーズ方式を採用しています。

測光と露出が連続的に行なえますが、露出値が確認できるよう2段押しになっています。

まずファインダーを覗きながら軽くシャッターボタンを押します。メーター指針が適正露出範囲に入り、絞り情報窓下のランプが点滅しなければ適正露出です。

露出アンダー警告ランプ 39 頁参照。

ランプが点滅するか、メーター指針が上部赤マークに入ったときは、不適正露出ですから適正露出範囲にメーター指針が振れるようにシャッターダイヤルを回してください。回すときはファインダーを覗きながら読取りスイッチを押し、人さし指を利用してください。

$1/30$ 秒以下になるとカメラぶれを起しやすいので、フラッシュ撮影に切換えるか、三脚などで固定して撮影してください。

### 3 ピントを合わせます

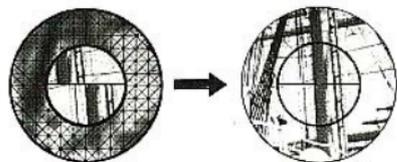
ピント合わせはファインダー中央の円形内で合わせます。

中央はスプリットイメージ、外はマイクロプリズムになっています。

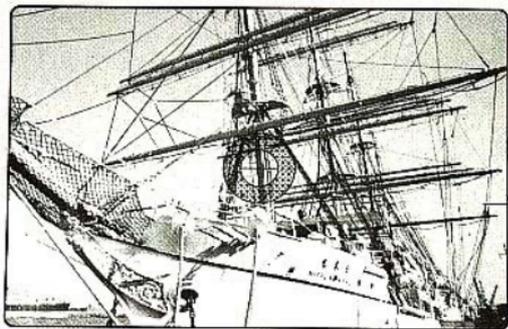
スプリットイメージプリズムは上下に分割された像が一致すればピントの合った状態で、像が左右にずれている場合はピントがはずれています。外側のマイクロプリズムでは像がもっともはっきり見える状態がピントの合ったときです。

ピントが合っていないときは、像は崩れてギザギザした感じに見えます。

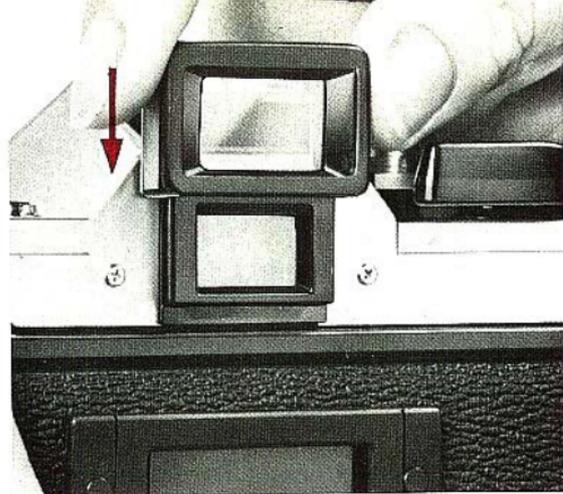
またピント合わせは、周囲のマット面でも



ピントがはずれている      ピントが合っている



22  
18  
16  
14  
4  
13  
12



## 視度補正レンズ

視度補正レンズを接眼部の溝に上から差込んで取付けることができ、近視遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。

カメラ本体の視度は-1ジオプターですが交換用視度補正レンズとして10種あります。

-4, -3, -2, -0.5, 0, +0.5, +1, +1.5, +2, +3 (ジオプター)

視度補正レンズは実際にカメラに取付けて覗き、確かめてから選んでください。

## アングルファインダー A2, B

ファインダー接眼部の溝に上から差込んで使用する胸高ルーペで、90°回転できますから上方あるいは横からも覗くことができます。

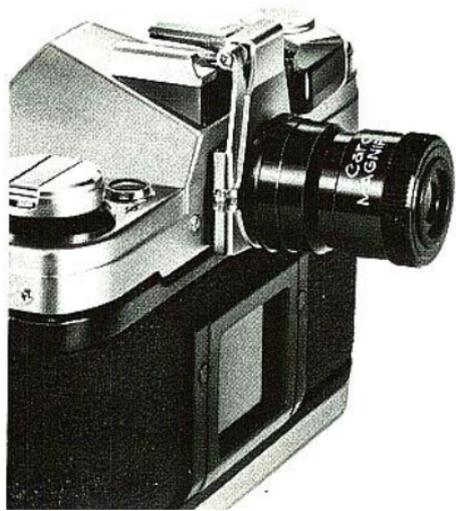
複写、接写、拡大、顕写等の際、使用すると非常に便利です。

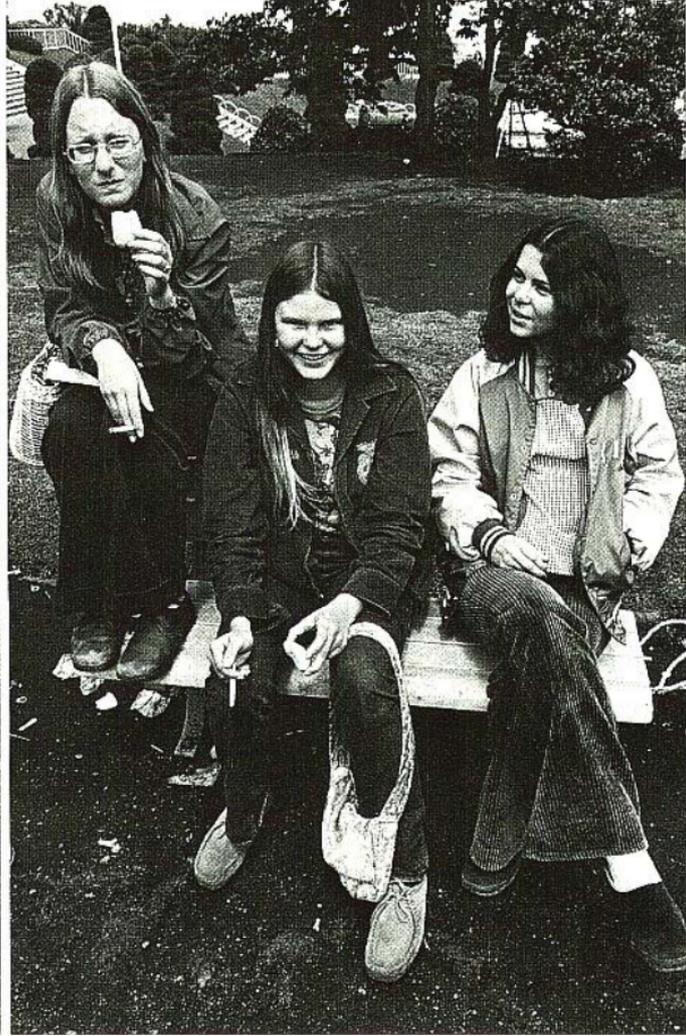
種類はA2とBがあり、A2は左右逆像、Bは正立正像で見ることができます。



## マグニファイヤーS

複写、顕写などのさいピントグラス像を拡大観察する2.5倍の直視ルーペで、ピント合わせを確実にするとき使用します。視度調節は+4～-4ジオプターの範囲で可能です。アダプターと併用して上方から接眼部に差込んで使用。マグニファイヤー全体を跳上げることができるため、ピント合わせ後すぐに全視野を眺めることができます。





## カメラの構え方

キヤノンAE-1の電磁リリースシャッターボタンは非常にシャッターストロークが短くなっており、また軽く、シャッターボタンを押すだけでシャッターが作動し、手ぶれをふせぎます。

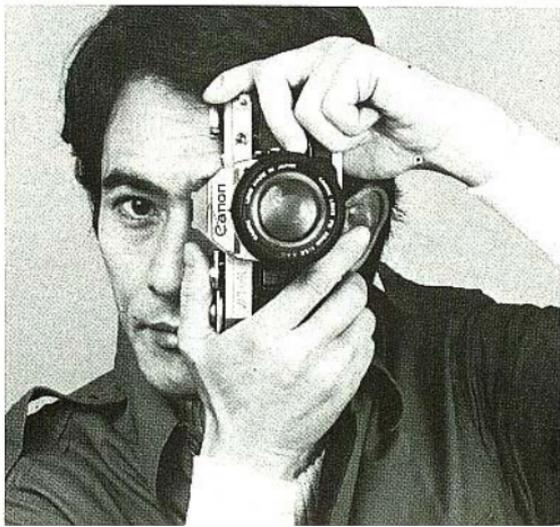
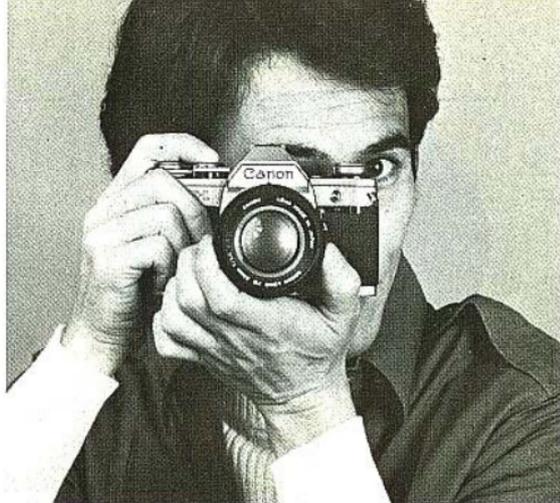
しかし、いかに優れた電磁リリース方式とはいえ、しっかり構えないと手ぶれをおこします。

カメラを手のひらにのせ、レンズのフォーカシングリングを指で回せるように持ちます。右手は人差し指をシャッターボタンの上に軽くのせ、他の指をアクショングリップにかけて持ちます。

左腕のひじを体に密着させ、カメラを額につけてファインダーを覗きます。右腕は楽にして構えます。

シャッタースピードが比較的遅い場合や望遠レンズなどを使用するときは、建物や木などを利用して構えるのも良い方法です。

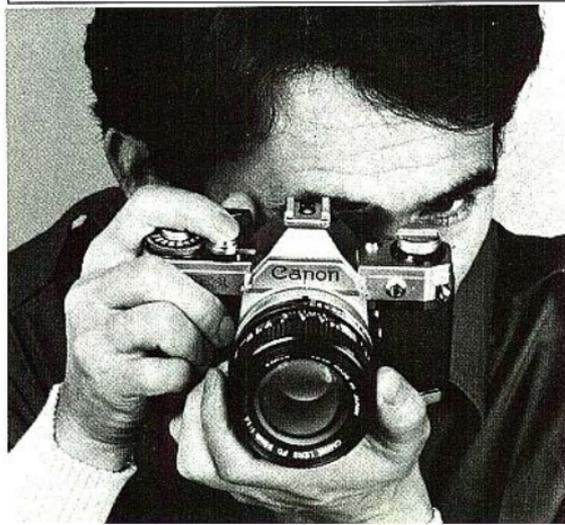
以上は構え方の基本ですが、ご自分に適した方法を見つけ、練習をして慣れてください。





### 三脚アダプター A

鏡筒の太いレンズをつけてカメラを三脚へ取付けると三脚によっては操作しにくい場合やぶつかる場合がありますが、その場合は別売のゴムマット〈三脚アダプターA〉を三脚とカメラの間に入れて取付けてください。



### 構 図

キヤノンAE-1はシャッター優先式AEカメラですから、被写体の条件によって変わる露出を気にすることなく、撮影に専念できます。ファインダーは一眼レフタイプですから、覗いた範囲がフィルムに写ります。

## シャッターボタンを押します

電磁リリース方式で軽く押せますが、シャッターボタンを押すときは、指をのせた状態から静かに押してください。

特に遅いシャッタースピードでは、指がシャッターボタンから離れている状態から一気に押すと、カメラブレになりますのでご注意ください。

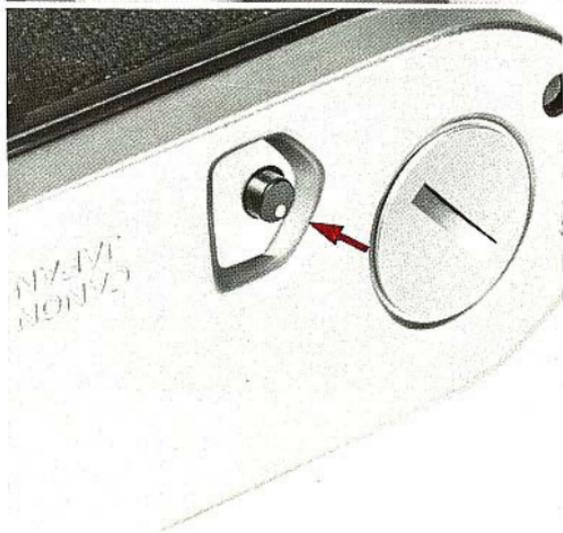
## 撮影終了の確認と巻戻し

フィルムの巻上げができなくなり、フィルムカウンターが撮影終了枚数に達したら、それ以上の撮影は出来ません。

撮影が終ったフィルムは、巻取りスプール側に裸のまま入っていますから、パトローネの中へ巻戻してください。

そのまま裏蓋を開くとフィルムが感光して駄目になります。

巻戻すときは、カメラ底部の巻戻しボタンを押したのち、巻戻しクランクを起して矢印刻印方向に回します。



フィルムカウンターがSになったら巻戻しを止め、裏蓋を開いてパトローネを取出します。フィルムカウンターがSで巻戻しを中止すれ

ば、フィルムリーダー部をパトローネの中に巻込まないで済みます。

## 撮影前に次のことを確認してください

撮影を急ぐあまり初歩的なミスで大事なフィルムを無駄にすることがあります。

ミスを防ぐため、もう一度次のことをチェックしてください。

### 1 レンズのプリセット絞りはAになっていますか

A Eロックピンを押しながら、プリセット絞りリングを回し、Aマークにセットしておくだけで、美しいカラー写真が得られますが、セットを忘れると適正露出は得られません。

Aマークがはずれていると、ファインダー内、絞り情報窓上部に手動撮影表示Mランプが点滅します。40頁参照。

### 2 使用フィルム感度をセットしましたが使用フィルム感度をセットしないと適正露出は得られません。

### 3 フィルムは正しく送られていますか フィルムが正しく送られているときは、フィルム巻上げのつど巻戻しノブが回転します。

## 各部機構のくわしい働きと応用

これまで基本的なAE撮影について説明してきましたが、このあとの詳細も続けてお読みいただき、理解していただくことが、より良い写真を撮るために役立つでしょう。

キヤノンAE-1には受光素子としてSPC(シリコンフォトセル)を内蔵しています。

シリコンフォトセルは、これまでの受光素子

に比べ非常に優れた応答性と測光範囲をもちます。

特にキヤノンAE-1では電磁リリース方式を最大限に生かすため、特殊回路を組込んだ測光方式を採用していますからEV1(ASA100F1.4 1秒)という暗さでもわずかに0.04秒という瞬間測光が可能となりました。

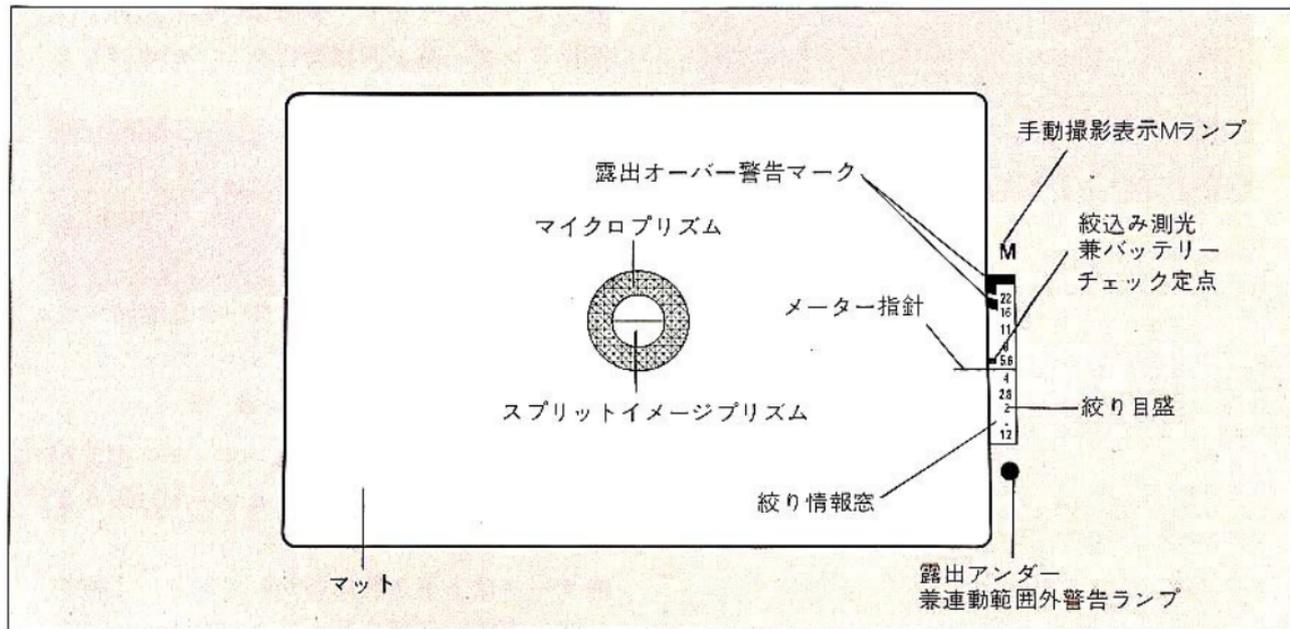


## ファインダー

ファインダーは明るく見易い設計で、距離計以外の撮影情報を視野外右側にすべてまとめ、すっきりした設計にしています。撮影情報は図のようになります。

## 測光分布

測光範囲は、主被写体が適正露出になるように考慮した中央重点測光です。



フィルム感度	連動範囲
25・・50	2秒～ $\frac{1}{1000}$
・・100	1秒～＼
・・200	$\frac{1}{2}$ 秒～＼
・・400	$\frac{1}{4}$ 秒～＼
・・800	$\frac{1}{8}$ 秒～＼
・・1600	$\frac{1}{15}$ 秒～＼
・・3200	$\frac{1}{30}$ 秒～＼

## 測光範囲

ASA100 F1.4レンズでEV1(1秒・F1.4)～18( $\frac{1}{1000}$ ・F16)です。

## 連動範囲

シャッタースピードとAE撮影の連動範囲は表のようになります。表の組み合わせ以外では、露出アンダー時と同様警告ランプが点滅します。

これ以外のシャッタースピードにセットすると、メーター指針が連動範囲外に下がり、シャッタースピードを遅くしてもランプが点滅を続けますのでご注意ください。

そのような場合は、シャッターを高速側へ戻せば正常に振れます。

## 露出オーバー警告マーク

被写体が明るすぎる場合は、メーター指針がメーター情報窓上部にある赤マークに入ります。

赤マークは上下2段にわかれており、上側がF22、下側がF16の最小絞りを持つレンズを使用したときの警告マークです。

メーター指針がこの赤マーク内にある場合はシャッタースピードを速くして適正露出を指すようにしてください。

F32を最小絞りとするレンズで、最小絞りを使用したいときにメーター指針が上の赤マークを指したときは、メーター指針が適正露出範囲に振れるまでシャッタースピードを速くし、そこからシャッタースピードを一段遅くして撮影すれば適正露出になります。

### 露出アンダー兼連動範囲外警告ランプ

このランプは不適正露出を警告して点滅します。ランプが点滅しないようにシャッタースピードを遅くすれば、適正露出が得られます。暗い場所で、暗いレンズを使用すると、メーター指針がそのレンズの開放絞り値を越えた絞り目盛を指すことがありますが、この場合はランプの点滅が優先しますので、ランプの指示に従ってシャッタースピードを遅くしてください。

例えばF2.8のレンズを使用したとき、メーター指針が2.8を越えた場合は、ランプの指示に従ってランプが点滅しなくなるまでシャッターダイヤルを回します。

このランプはシャッタースピードをB（バルブ）にセットして、シャッターボタンを軽く押したときも点滅します。



手動絞り表示  
Mランプ

M

バッテリーチェック  
兼絞込み測光定点

22  
16  
11  
8  
5.6  
4  
2.8  
2  
1.2

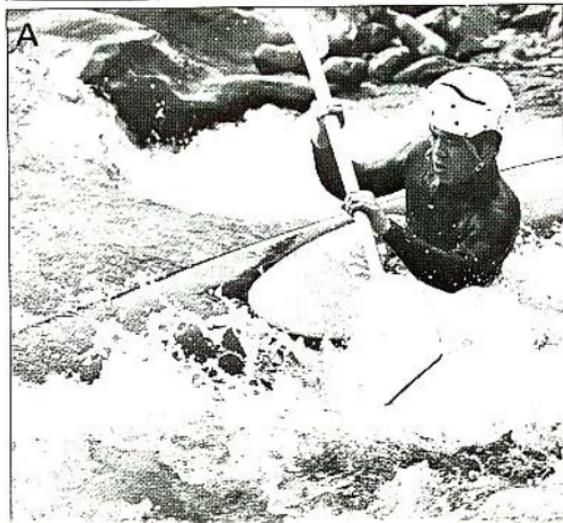
**バッテリーチェック兼絞込み測光定点**  
バッテリーチェックをするときの指標と同時に、FLレンズなどを使用して絞込み測光を行なうときの指標です。48頁参照

### 手動絞り表示Mランプ(LED)

A E撮影ではレンズがAマークにセットされていないと適正露出を得ることができません。絞り日盛がAマークからはずれているときは、手動絞り表示Mランプが点滅し警告します。またFLレンズやペローズなどを使用したときも点滅します。点滅はシャッターボタンの第1ストロークで行なわれます。

### 露出について (シャッターと絞りの組合わせ)

適正露出は適切なシャッターと絞りの組合わせがあって、はじめて得ることができます。



## 1 シャッタースピードを変えたときの効果

作例写真はどちらも動きを表現したのですが、Aの写真はシャッタースピード $\frac{1}{250}$ 秒で撮影したものです。

被写体の動きは止まっています。

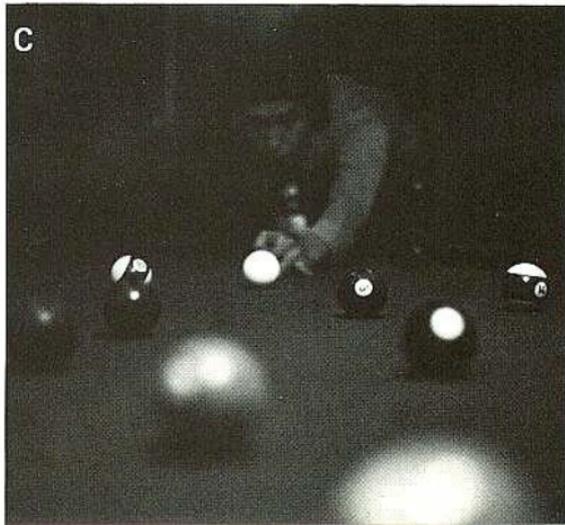
Bの写真は同一被写体を $\frac{1}{60}$ 秒で撮影したものです。

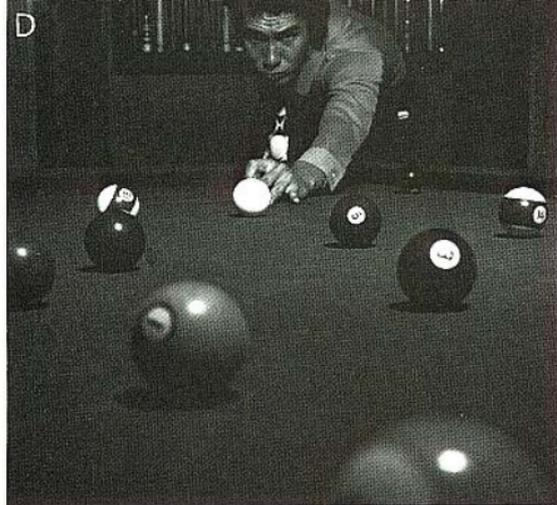
2枚の写真はどちらが良いかは見る人によって異なります。

このようにシャッタースピードを変えることによって、動きの表現を自由にコントロールできます。

## 2 絞りを変えたときの効果

このカメラは、シャッター優先のAEカメラですから、シャッタースピードを変えると絞りが変わります。つまりシャッターを1段変えれば絞りが1目盛変わります。また絞りが変わると写真効果も次のように変わります。





Cの写真は絞りをF4になるようにシャッターダイヤルを回して撮影したものです。Dの写真はF16にして撮影したものです。この差ははっきりしています。

Cの写真は背景がボケて前面の球を強調しています。

Dの写真は背景の人物もはっきりと写っています。

このように絞りが変わると被写体の前後の関係が変わってきます。



### 絞り優先撮影

絞り効果を考慮して、絞り値を先に決めて撮影する場合は、ファインダーを覗きながら露出読取りスイッチを押し、メーター情報窓内の指針が希望の絞り値になるように、シャッターダイヤルを回します。

## 被写界深度

ある一点にピントを合わせると、その前後に鮮明に写る範囲があります。これを被写界深度と呼びます。

被写界深度の確認は実際に絞込んで確認する方法とレンズの被写界深度目盛から読取する方法があります。

### 1. 絞込み操作による確認

1. フィルムを巻上げ被写体を測光します。
2. 絞りのAマークをはずし、測光した絞り値（または確認したい絞り値）にセットします。
3. 絞込みレバーをロックされるまで押し込みます。その状態でファインダーを覗いて、被写界深度を確認してください。

被写界深度を確認するときは、必ず巻上げレバーを巻上げてから行なってください。

巻上げないと前の露出値までしか絞込むことはできません。また、絞込みレバーは絞りのAマークをはずさないで、押し込みができません。

なお、FDレンズで絞込み測光はできません。



4.絞込みレバーの下のロック解除ボタンを押して絞込みを解除します。

5.絞りリングをAマークに戻します。その際、一度開放F値に回してから行なってください。そのまま戻すと絞込んだときの絞り値がAE回路に記憶されていますので、次のAE撮影の1枚目が適正露出になりません。ご注意ください。

被写界深度は一般的に絞りを絞るほど深く、開放になるほど浅くなりますが、その他、レンズの焦点距離が短くなるほど深く、被写体との撮影距離が離れるほど深くなる性質があります。

すなわち焦点距離が28mmの交換レンズと50mmの標準レンズでは同じ絞り値にセットして撮影した場合、28mmレンズの方がピントの合う範囲が深くなります。

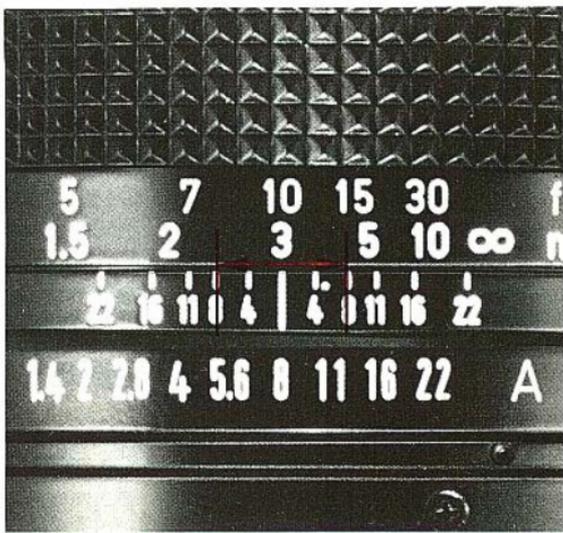
また撮影距離を変えた場合も変わります。例えば同一被写体を3m、および7mの位置から撮影したのでは、遠い被写体ほど前後のピントは深く写ります。

## 2. 被写界深度目盛から読取る方法

距離指標の両側に並んでいる、1対のF値が被写界深度目盛です。被写界深度目盛は距離目盛に関連して目盛りられていますので、深度の範囲は距離目盛から読みとることができます。

例えばある被写体を撮影したとき、絞りがF8、撮影距離が3mとします。

その場合は被写界深度目盛のF8に対応する距離目盛を読取ると、約2.4mと4.5mになります。



## 逆光撮影の自動露出補正

室内で明るい窓を背景にして人物撮影などをすると、人物が露出不足になることがあります。このような逆光撮影では露出補正スイッチを押したままシャッターボタンを押してください。メインの被写体が適正露出になります。

露出補正スイッチを押すと絞りは1.5 絞り開きます。

## 手動絞りによる露出補正(AEの解除)

絞りリングのAマークを指標からはずすとAE撮影はできませんが、メーターは単独で働きます。従って、露出確認ボタンを押せば(またはシャッターボタンの第1ストローク)適正絞りを読取って、手動で絞りをセットすることができます。

これを利用すれば適正值に対し自由に露出量を調節するハイキー、ローキー写真を得ることも、強烈な逆光補正撮影も可能です。

使用後は絞りリングをそのままAマークにセットしてください。この場合は絞込みによる



絞り値の記憶がありませんから、開放F値に回す必要はありません。

## ASA感度による露出補正

ASA感度数値が $\frac{1}{2}$ になると露出量が2倍になる関係にありますので、感度の切換えによっても露出補正ができます。例えば逆光撮影でASA100のフィルムを50にセットし直せば、被写体に2倍の露出を与えることができます。

## セルフタイマー撮影

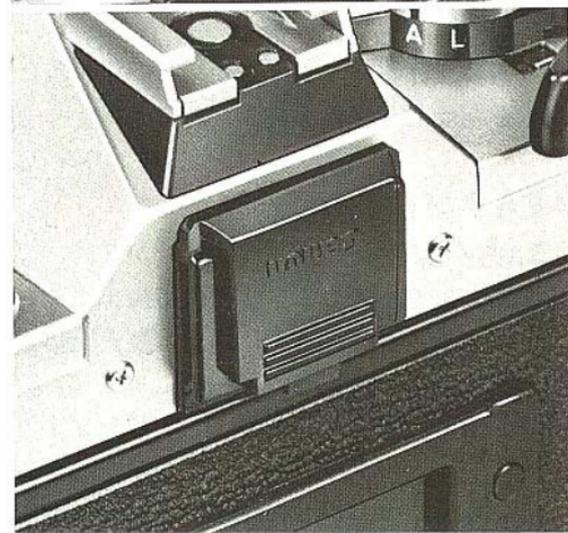
セルフタイマーは自分自身を撮る場合のほか、複写、顕写などの際の振動防止撮影にも利用します。

電子セルフタイマーレバーを前面に引出し、シャッターボタンを押すと、そのときの露出が記憶され、10秒後に撮影が行なわれます。

セルフタイマー撮影中はセルフタイマー作動表示ランプが点滅します。撮影終了後は必ずレバーを戻してください。そのままにして撮影すると、次もセルフタイマー撮影になります。

露出記憶回路には、シャッターボタンを押した瞬間の露出が記憶されます。したがって、カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。

またファインダーから逆流光が入って露出に狂いを生じることがありますので、アクセサリケースに差込んであるファインダーカバーを接眼部に取付けてからシャッターボタンを押してください。



## セルフタイマー撮影の途中解除

シャッターボタンを押してからセルフタイマー撮影を途中で解除したい場合には、カメラ上部のバッテリーチェックボタンを押してください。作動表示ランプの点滅が止まり、セルフタイマー撮影が中止できます。

チェックボタンを押さずにレバーを戻すと、その時点でシャッターが切れます。

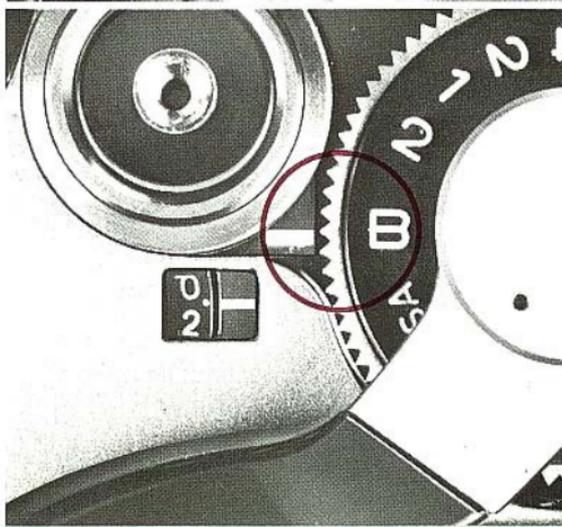
## 長時間撮影とB(バルブ)

夜景などで2秒を越える撮影を行なうときは、シャッタースピードをB(バルブ)にセットしてください。

シャッターボタンを押している間はシャッターが開いたままになります。

バルブ撮影では三脚とロック付きケーブルリリースをご使用ください。ロック付きケーブルリリースはシャッターを押し放しの状態にすることができます。

シャッターを閉じるときは、ケーブルリリース先端のロックを解除して行なってください。





バルブ撮影中は電池を継続して使用するため電池消耗が速くなります。したがって電池は電圧の豊富にある新品にかえてください。

## 絞込み手動測光撮影

このカメラはFDレンズとの組み合わせによる開放測光自動露出方式ですが、レンズとボディの間にベローズやエクステンションチューブなどを併用するとき、およびFLレンズを使用するときは、絞込み手動測光を行なってください。

絞込み手動測光撮影は、絞込みレバーをロックされるまで押込み、シャッターボタンまたは露出読取りスイッチを軽く押しながら、レンズの絞りリングまたはシャッターダイヤルを回し、メーター指針を絞込み測光定点の中心に合わせれば適正露出にセットされます。絞込みレバーを押込んだ状態でレンズを取付けると適正露出は得られません。ご注意ください。

絞込みレバーを押込んだ状態では、ボディ連動部に不作動注意の警告赤マークが見えます



FDレンズは必ず開放測光で使用してください。絞込み測光撮影をすると露出誤差がでます。

## FDレンズの手動絞りロック

レンズとボディの間に絞り連動ピンのない、中間チューブなどをはさんで撮影する場合は、手動絞りになりますので次のようにしてください。

### 手動絞りロック(1)

レンズ後部の自動絞りレバーに、別売の絞りレバーストッパーを取付け固定します。この状態でエクステンションチューブM等に取付ければ、絞りが閉鎖します。

※絞りレバーストッパーを取付けたレンズを、直接カメラに取付けることはできません。

### 手動絞りロック(2)

マクロレンズ及び縮付けリングを持つFDレンズは、自動絞りレバーを反時計方向に一杯に押付けると、自動絞りレバーが固定されます。この状態でエクステンションチューブに取付

絞りレバーストッパー

(1)



(2)



(3)



け、絞りリングを回せば絞りが開閉します。

### 手動絞りロック(3)

縮付けリングを持つFDレンズの中でも、手動絞りロックレバーを持つレンズの場合は、最初に自動絞りレバーを反時計方向に押付け、ロックレバーを(L)位置へ動かして自動絞りレバーを固定します。

この状態でエクステンションチューブ等に取り付け、絞りリングを回せば絞りが開閉します。手動ロックの解除は、ロックレバーを白点側へ戻すだけです。

(4)



### 手動絞りロック(4)……マクロフォトカプラー併用時

拡大撮影でレンズを逆向きにして、マクロフォトカプラーFLへ取付けて使用するときには、レンズの自動絞りレバーを手動絞りロック(1)、(2)にしたうえで、マクロフォトカプラーについているマクロフードをレンズのマウント部にはめ込み、縮付けリングを回して取付けます。

絞込みで撮影する場合には、シャッターボタンの第1ストロークで、ファインダー内絞り情報窓上部に手動絞り表示Mランプが点滅します。

## レンズ交換

FDレンズは各種の信号ピンを内蔵していますが、レンズ交換をする際は、これらの信号ピンやレンズ面を損なわないように上向きにして置いてください。

次のレンズは後部がボディの開放補正信号ピンを押込むため、メーターは使用できません  
FL19mmF3.5, FL35mmF2.5, FL50mmF1.8  
FL58mmF1.2, R35mmF2.5 R50mmF1.8, R100mmF2

また、上記のレンズの取付けは、フィルム巻上げ後に行なってください。

キャップをはずしたままカメラを直射日光下に放置すると、フィルムにかぶりを生じたりミラーのすきまから入った光で、シャッター幕に焼け穴をつくることがありますので使用しないときは、必ずキャップをしてください。

※カメラマウント部にAE信号ピン受けのないものは、(FTbなど)Aマークにセットすることはできません。また、Aマークにして取付けることもできません。ご注意ください。

## レンズ各部の説明

### 絞り信号レバー

カメラ側からの絞り信号を受けて指定の絞りにセットするレバーです。Aマーク位置にないときは絞りリングと対で連動します。

### 自動絞りレバー

ボディの自動絞りレバーと連動し、絞り羽根を作動させるレバーです。

### 開口信号ピン

レンズの明るさを伝達するピンで、開放F値の設定がレンズ交換と同時に自動的に行なわれます。

### AE切換えピン

プリセット絞りリングをAマークにセットすると出てくる信号ピンでAE機構伝達ピンです。

### 予備信号ピン

システムアクセサリ開発のための予備ピンです。



## レンズの各目盛

### 絞り目盛

絞りは肉眼と同じように径を大きくしたり、小さくしたりして光量の調節を行いません。絞り径はF値と呼ばれ、数値が1目盛大きくなるごとに光量が $\frac{1}{2}$ になります。絞りは目盛の中間も使用できます。

レンズによって開放F値と次の絞り目盛の間は半分にならないレンズもあります。

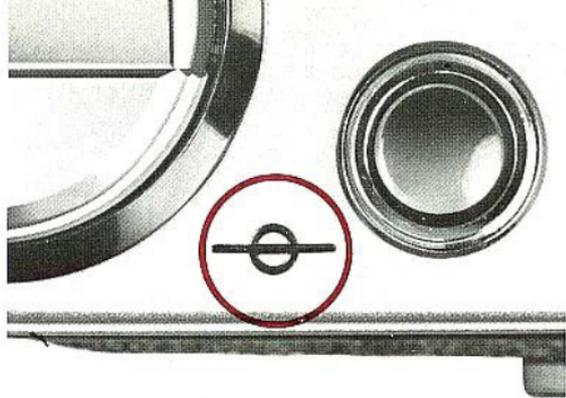
絞り目盛はF2を基準にして、次のようになります。

明るさ(F)	1.2	1.4	(2)	2.8	4	5.6	8	11	16
比率	3	2	(1)	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{1}{8}$	$\frac{1}{16}$	$\frac{1}{32}$	$\frac{1}{64}$

### 距離目盛

距離目盛はフィルム位置マークからの距離を目盛っており、一般撮影ではあまり使用することはなく、被写界深度確認や赤外線写真撮影をする場合、およびフラッシュ撮影のガイドナンバー計算等に使用します。

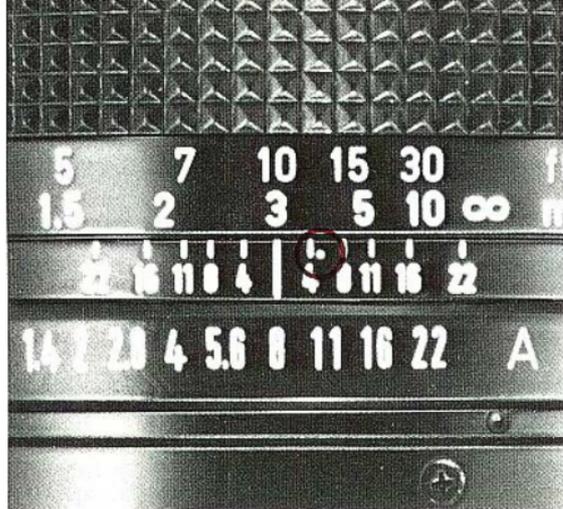
読取り方は1桁の数字では文字の中心で、2桁の数字では数字の中間位置で読取ります。



### フィルム位置マーク

フィルム位置マークはフィルム面の位置を示し、レンズの距離目盛はこのマークから測った被写体までの距離です。

フィルム位置マークは一般撮影では使用しませんが、接写・拡大時は被写体までを実測して使用することがあります。



## 被写界深度目盛

被写界深度をレンズの距離目盛から読取る場合に使用します。

## 赤外マーク

赤外マークは赤外フィルムを使用したときの距離指標です。

赤外線は可視光線にくらべて波長が長いので、ピント位置を後にずらす必要があります。そのため、一度距離合わせをした後、その目盛を赤外マークに合わせて補正します。

最初にピントを合わせ、その結果が5mなら、距離目盛の5を赤外マークに合わせれば良いわけです。また赤外線フィルムを使用するときは必ず赤色フィルターを使用してください。赤外カラーフィルムについてはフィルムの使用書説明書に従ってください。

赤外マークの位置は800m $\mu$ 程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤色フィルターを使用したときを規準にして目盛られています。(例えばコダックIR135フィルムとラッテン87フィルターなど)

# アクセサリーのご紹介・手入れ 保管・その他



## 専用キヤノンスピードライト (155A, 177A, 199A)

キヤノンAE-1は、専用の自動調光式スピードライトを使用すれば、フラッシュ撮影も自動で可能です。

従来のストロボとは異なり、カメラ側にフラッシュ撮影のための準備が不要で、シャッタースピードはB以外のどこにあっても良く、絞りはAマークにセットしたままでさしつかえありません。パイロットランプが点灯すると、シャッタースピードは $\frac{1}{60}$ 秒X接点に、絞りは所定の調光絞り値に自動的にセットされる画期的な方式です。

そして撮影後、次の充電までは自動的にカメラのAE撮影回路に戻っていますから、ストロボ撮影とAE撮影を効果的に利用することができます。また、調光解除による手動絞り撮影とFLレンズの使用を考慮した手動調光撮影を可能にしてありますが、いずれの場合も、シャッタースピードは自動セットとなっています。このストロボの調光感度分布は中央部をおさえ、被写体の背景からの影響を少なく



した独特の平均測光方式を採用していますから、きわめて正確な露出が得られるようになっています。

さらにスピードライトのスイッチをOFFにすればフラッシュ回路が全く切れて、取付けたままでAE撮影ができるなど使い易い設計となっています。くわしくは、それぞれの使用説明書をご参照ください。

## AE-1のフラッシュ撮影について

### 1. フラッシュ接点：X接点(1/60秒)

キヤノンスピードライト155A、177A及び199Aの場合はパイロットランプ点灯によりつねに自動セットされます。

他のストロボ使用時には必ずシャッタースピードを1/60秒にセットしてください。

### 2. フラッシュターミナル：直結式ホットシュータイプおよびコード接続用JIS-B型ターミナルの2種。両ターミナルを利用すると、2灯発光が可能です。



### 3. フラッシュ同調範囲

スピード		1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15	1/8	1/4	1/2	1	2	B
		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
フラッシュ	FP						△	○	○	○	○	○	○	○
	M-MF						△	○	○	○	○	○	○	○
スピードライト						○	○	○	○	○	○	○	○	○

(△印はバルブによりばらつきのあるもの)

### 4. 155A、177A及び199A以外のストロボ使用時には、必ずシャッタースピードを1/60秒にセットし、絞りはAマークをはずし、ガイドNO計算によるか調光絞りに手動セットします。

## キヤノンパワーワインダーA

キヤノンパワーワインダーAはキヤノンAE-1の撮影の自動化と機動性を飛躍的に高めたフィルム自動巻上げ装置で、すべてのキヤノンAE-1に無調整で取付け使用可能です。

そして装着時には、常にフィルムが巻上げ状態になり、シャッターボタンを押すと、即座に撮影が開始されます。

また、連続・1コマ撮影が自由にコントロールできますから、被写体の動きや瞬間の表情までを意のままにとらえられます。

1コマ撮影の場合は、全シャッタースピードが使用でき、また連続撮影の場合には1/60秒から1/1000秒まで使用可能です。

キヤノンAE-1は主な機能をカメラボディの電子回路に内蔵した小型軽量設計ですから、パワーワインダーAを装着してもカメラ単体並みの感触で撮影可能です。





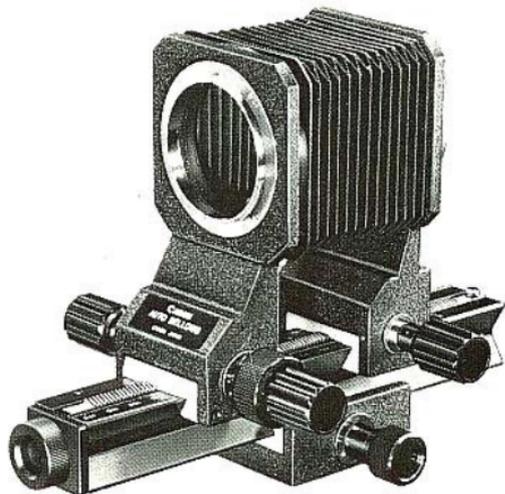
## データバックA

日付け写込み装置内蔵の交換用裏蓋です。  
楽しい思い出と同時に画面右下に年 月 日を  
写込みます。また、日付けの記録だけでなく  
アルファベット文字もあり、組合わせて各種  
データの記録にも活用できます。



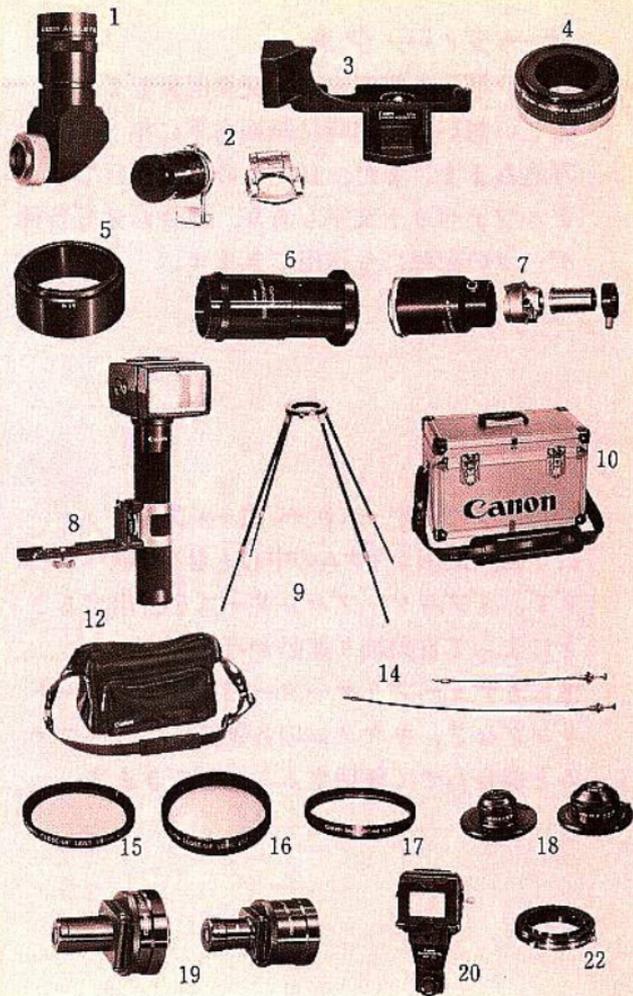
## キヤノンオートベローズ

接写拡大撮影システムを中心となる高級ベローズ  
ズで、ダブルケーブルリリースを併用するこ  
とによって自動絞リ運動が可能です。  
他にもデュープリケータ-35、マクロオート  
リングなど、キヤノンの各種接写拡大システ  
ムと組合わせて使用することができます。



## アクセサリ

1. アングルファインダー-A2, B
2. マグニファイヤ-S
3. カメラホルダー-F3
4. マクロフォトカプラー-FL, 52, 55, 58
5. レンズフード各種(広角, 標準, 望遠用)
6. マイクロフォトフード
7. フォトマイクロユニットF
8. キヤノンスピードライト500A
9. ハンディスタンドF
10. ギャゼットバッグGM-1
11. ギャゼットバッグGL-1, GL-2
12. ギャゼットバッグGS-1
13. ギャゼットバッグL-1, L-2
14. キヤノンレリーズ30, 50
15. フィルター-52, 55, 58mm各種
16. 52, 55, 58mmクローズアップレンズ240, 450
17. ステップアップリング52-55
18. マクロフォトレンズ20mm F3.5, 35mm F2.8
19. デュープリケータ-8, 16
20. デュープリケータ-35
21. フォーカシングレール
22. マクロオートリング
23. マクロステージ
24. ロールフィルムステージ
25. ダブルケーブルレリーズ
26. 52mmアタッチメントリングデュープリケータ35用
27. 52mmアタッチメントリングハンディスタンドF用





28. エクステンションチューブFD15-U, FD25-U, FD50-U
29. コピースタンド5
30. コピースタンド4
31. オートベローズ
32. ベローズM
33. エクステンションチューブMセット
34. 視度補正レンズ(10種)
35. キヤノンスピードライト155A, 177A, 199A
36. パワーワインダーA
37. データバックA
38. アクションケースA
39. エクスターナルバッテリーパックA
40. スナップケース各種(カメラ/レンズ用)
41. レンズハードケース(LH)各種
42. レンズスナップケース(LS)各種

## 商品構成

ボディ：ファインダーカバー、銀電池、アイカップ  
 4S、フラッシュターミナルキャップ、カメラカバーRF、ネックストラップ7  
 レンズ：レンズキャップ、ダストキャップ

## 主要性能

型式：電子制御式35mmフォーカルプレーン  
シャッター一眼レフAEカメラ

画面サイズ：24mm×36mm

使用レンズ：FDレンズ群（開放測光AE撮影）  
FLレンズ群（絞込み測光撮影）

標準レンズ：キャノンFD55mmF1.2 S.S.C.

FD50mmF1.4 S.S.C. FD50mmF1.8 S.C.

レンズマウント：FD, FL, R各レンズ取付け可  
能

ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベル  
式

視野の大きさ：上下93.5%、左右96%

ファインダー内情報：マイクロスプリット距離計、  
絞り目盛、メーター指針、露出オーバー警告  
マーク、露出アンダー兼連動範囲外警告ラン  
プ 手動撮影表示Mランプ（LED—赤色  
発光ダイオード使用）、絞込み測光兼バ  
ッテリーチェック定点

ファインダーアタッチメント：アングルファイン  
ダー、マグニファイヤー、視度補正レンズ10  
種、アイカップ

ミラー：ノンショックイックリターン反射  
ミラー

A E 機構：シャッタースピード優先式電子制御  
自動露出機構(AE), IC 2 コとP<sup>2</sup>L (アイ・ス  
クエア・エル) を応用のLSI 1 コ使用

測光方式：受光素子にシリコンフォトセル (S  
PC) 使用のTTL中央重点測光

測光範囲：ASA100でEV1(F1.4・1秒)~18(F  
16・ $\frac{1}{1000}$ 秒)

使用フィルム感度：ASA25~ASA3200

露出補正：露出補正スイッチによりオーバー側  
へ1.5絞り補正

露出読取り：シャッターボタンの第1ストローク  
または露出読取りスイッチにより確認

シャッター：全速電子制御の4軸式布幕フォーカ  
ルプレーンシャッター、ショック吸収および  
消音装置付き

シャッタースピード： $\frac{1}{1000}$ ・ $\frac{1}{600}$ ・ $\frac{1}{250}$ ・ $\frac{1}{125}$ ・ $\frac{1}{60}$ ・  
 $\frac{1}{30}$ ・ $\frac{1}{15}$ ・ $\frac{1}{8}$ ・ $\frac{1}{4}$ ・ $\frac{1}{2}$ ・1・2(秒)・B, X接  
点は $\frac{1}{60}$ 秒

シャッターダイヤル：ASA感度目盛りセット, B  
・ $\frac{1}{1000}$ ~1秒は白色, 2秒は橙色, 不用意回

転を防ぐシャッターダイヤルガード付き

シャッターボタン：電磁リリーススイッチ式大型ボタン、第1ストロークで測光回路のスイッチオン、第2ストロークでシャッターリリースが行なわれる。ボタンロック機構あり、ケーブルリリースソケット付き

セルフタイマー：電子制御セルフタイマー。シャッターボタン周りのセルフタイマーレバーを前方に出すことによりセット。始動はシャッターボタンによる。時限は10秒、作動中はランプによる点滅表示(LED)

絞込み：プリセット絞りリングをセットしたときのみ絞込みレバーを押込み

電源：6V酸化銀電池JIS 4SR44(4G13)、エバレディNo.544、マロリーPX28またはアルカリマンガン電池エバレディNo.537、ナショナルマロリー7K34通常の使用で約1年使用可能

電池チェッカー：チェックボタンを押してファインダー内指針の振れによって読取る

シンクロフラッシュ：X接点、 $\frac{1}{60}$ 秒、M級は $\frac{1}{30}$ 秒以下使用

ソケット：アクセサリシュー部には直結接点お

よび信号接点あり。ボディ前面にJIS B型ソケットあり。感電防止機構付き

フラッシュオート：専用スピードライト155A使用でシャッターおよび絞りが自動設定され自動調光となる

裏蓋：着脱可能、データバック交換可能  
巻戻しクランク引上げにより開放、メモホルダー付き

フィルム装てん：多スリットスプールによる簡易装てん

フィルム巻上げ：一作動、巻上げ角120°、予備角30°、小刻み巻上げ可能、パワーワインダーAにより自動巻上げ可能

フィルムカウンター：順算式、自動復元式、フィルム巻戻し時は連動して逆転

フィルム巻戻し：巻戻しボタンおよび上部クランクによる巻戻しボタンは巻上げにより自動復帰

その他：電池消耗時にはカメラが作動しない安全機構、シャッター作動中の巻上げ防止等

大きさ・重量：141×87×47.5・590g ボディのみ  
FD50mm F1.4 付き830g



## カメラの手入れと保管

どんな優れたカメラでも適切な手入れをしなければその性能を十分に発揮することはできません。そのため常に手入れを心がけてください。手入れをするため、ブロワーブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、シリコンクロスなどをお求めください。

### 手入れ

レンズとファインダーはブロワーブラシで砂やホコリを吹払った後、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭き取ってください。海辺などで使用したカメラは塩分がついていますので特に良く拭いてください。

カメラのミラーボックス内はブロワーブラシで吹払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、キヤノンサービスステーションにお持ちください。

フィルム室内には、フィルムカスなどが付きやすいため、常にゴミを吹払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムにすりキズをつける原因になります。

レール面や圧着板をふく場合はクリーナー液

とクリーニングペーパーを使用してください。その際、シャッター幕には手をふれないでください。

### 保管

カメラケースをはずし、電池類を抜取って、湿気やほこりのないところに保管してください。またカメラは長期間使用しないでおくとかびや故障の原因になることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。特に保管する場合、次のような場所はさけてください。

①車のトランクやリアウインドーなどは高温になり、故障の原因となることがあるためさけてください。

②実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるためさけてください。

同様にタンスの中などもさけてください。カメラを長持ちさせるには、3年に1度位は最寄りのキヤノンサービスステーションで点検してください。

特に長期間使用しなかったカメラは各部を点検してから使用してください。

## アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。尚、運賃諸掛りはお客様にてご負担願います。
  2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。尚、故障の原因や内容によっては、期間内でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買上げ店又は、裏表紙記載の当社サービス機関にお問合せ下さい。
- ★ 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付する等、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送り下さい。

万一の紛失や盗難などの不慮事に備えてボディ番号などを記入しておきましょう

品 名 キヤノンAE-1

ボディ番号：

レンズ番号

氏 名

住 所

電話番号

備 考

**寒い場所でカメラを使用するときは  
(予備電池を保温してください)**

一般に電池は0℃以下になると性能が急激に低下しますので、0℃以下の場所で撮影するときは、新品電池を使用してください。

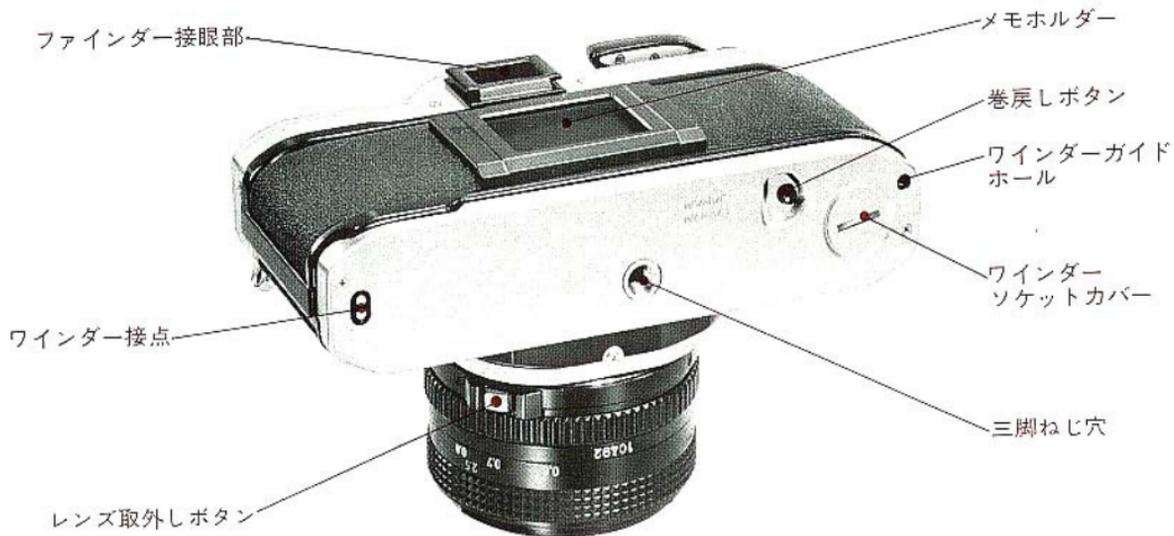
また、予備電池も用意し、体温であたためながら使用してください。

低温のため性能が低下した電池は常温に戻ると復元しますので捨てないでください。

**(カメラは環境温度に徐々に慣らし  
てください)**

寒いところから温かいところへと急激な温度変化をカメラに与えると、ファインダーやレンズが曇って見えなくなったりしますので、カメラは徐々に環境温度に慣らしてください。少なくとも10℃の温度差を、30分位かけるようにしてください。ビニールの袋にカメラを密封して、環境温度に慣らしてから取出してください。





※後側の各部名称は裏表紙に折込んであります。開いたまま使用説明書の内容に照らし合わせてください。